



檜山地本通信

第12号 2011年6月21日 発行

発行 自治労北海道檜山地方本部 TEL0139-54-2012 fax0139-54-2010

河原さん（せたな町職）、復興支援活動へ出発

檜山地本では、このたび、東日本大震災の「自治労復興支援活動」（人的支援）第11グループ（6月18日（土）～27日（月）に、せたな町職の河原泰平さんを派遣しました。

この間、当局交渉等ご調整いただきました各単組のみなさんに心から感謝申し上げます。

すでに第5グループで行かれた成田さん（上ノ国町職）、伊藤さん（江差町職労）の時と体制が変わり、第9グループ（6月4日～）以降の体制は、それまで15人で3班（一つの班5人）編成だったものが、6人3班（一つの班2人）体制へととなりました。河原さんが行かれたこの第11グループも同様に、6人編

成となっています。
6月18日（土）、午前10時17分函館駅発スーパー白鳥26号で河原さんは旅立ちました。



青森駅からは、東北新幹線はやて128号に乗り換え、盛岡駅へ。盛岡駅では第11グループの他のメンバーと合流し、そこからは自治労の貸し切りバスで移動しました。午後5時40分頃宮古市ベースキャンプ（宮古ホ

函館駅を出発する河原さん(6月18日)

テル沢田屋）へ着くと早速ミーティングが行われ、自治労北海道本部の担当業務が決まりました。河原さんの担当は、山田町における、仮設住宅に関することや駐車場の位置案内配布、番号杭打ち、カレンダー配布などです。河原さんの支援活動任務を終えるまでの間、河原さんの無事を祈り、檜山地方本部を代表してのご活躍に敬意を表したいと思います。



山田町の現在の状況

組織集会開催

6月11日（土）、午後2時00分から乙部町民会館において、「2011年度檜山地方本部組織集會」を開きました。

檜山管内各単組・総支部及び道本部、自治労共済、共済議員など含め42人が参加しました。集



冒頭あいさつに立つ長尾執行委員長

次に、檜山地本から「2011国民春闘中間総括」について提起しました。続いて全体討論として、各単組・総支部からそれぞれ発言があり、第15回定期大会以降、副執行委員長5人体制へと移行されたことに対して、この間の議論経過を踏まえつつ、組織の充実・地本の

会は、長尾地本委員長のあいさつで始まり、続いて道本部川本書記長のあいさつ、大島組織部次長から道本部提起、自治労共済山道

管理部副部長からは、自治労共済への加入促進についての詳細な説明がありました。

指導強化を求める意見などもありました。

また、「職能評議会・女性部・青年部のあり方」としては、評議会への対応が単組段階で厳しい実情があり、また地本段階でも現在活動停滞気味の感否めないものの、職種に応じた組織の必要性は十分認めるところであり、類似の職種の課題・悩みの共有、それに対する問



全体討論に参加する伊藤副委員長（乙部町職）

題解決行動を協議する場としての評議会はなくてはならないという意見がありました。

全体討論を受けて、道本部、檜山地方本部からそれぞれ答弁しました。

道本部からは単組の負担軽減のため会議の合理化を今後とも行っていくことや、青年婦人部活動に対する助言などがありました。また地本からは、副執行委員長5人体制について、今後検証・討議を重ねながら充実させていく必要があること、また、職能評議会のあり方については、当面、各種評議会で向こう一年間議論を重ねる必要があることなどを述べました。

その後、萬木共済議員から、この間の共済制度の議論経過等について説明が

ありました。

ありました。

最後に、檜山地本から「東日本大震災自治労復興支援活動」に派遣した、江差町職労・伊藤 公さん、上ノ国町職・成田妃佐美さんから、避難者の受付対応や、夜勤対応など実際の活動や、現地の状況はどうであったかなど、それぞれから詳細な活動報告がありました。



第5グループ集合写真（5月7日BC前にて）